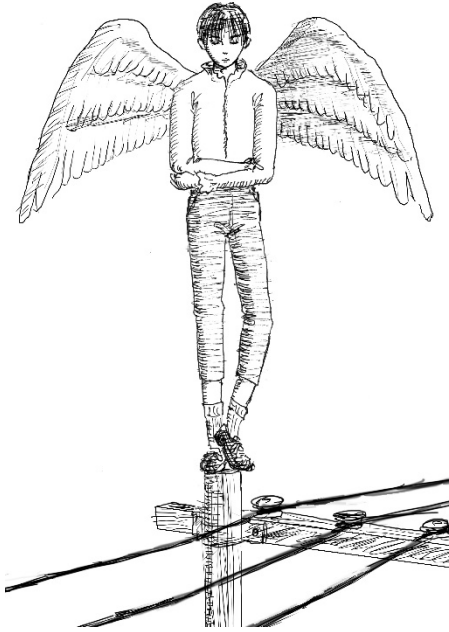


天使のためいき

福島 祥行



雨の日にアンニュイになるのは、新しく買ったベージュのパンタロンが履けないせいじゃないし、起きぬけに鏡に向かった視線が、思わずエステのちらしに吸い寄せられてしまったことへの自己嫌悪のせいでもない。もちろん、昨日の係長の小言とかお局様の嫌味とは無関係だ。

——なんとなく…

だが、そう口に出してみると、まことに無駄に落ち込んでいる気がして、いっそう気が滅入った。こんな日に現実逃避したくなくなったとしても、美喜を責めるわけにはいかないだろう。テレビに目をやると、ニュースがパリ市長選挙の話題をやっている。ふと彼女の頭の中に「フランス留学」という文字が浮かんだ。

——そういえば、「アンニュイ」も「ベ

ージュ」も「パンタロン」も「エステ」もフランス語だったっけ…

学生時代に2年間習っただけのフランス語の記憶は、もちろん霧の彼方だ。けれど、初老の先生がモゴモゴ喋った雑談だけは、妙にはっきりと憶えている。

——「Gパン」てのは「ジーンズ・パンツ」という和製英語の略ですが、jeansというのはイタリアのジェノヴァのという意味の古い仏語 janua から来てまして、pants てのは仏語の長ズボン pantalon から米語にはいった言葉なんですね…

なんとか会社をサボる口実を考えながらも、ゴミだけは出しておこうと、傘をさしてアパートのゴミ集積所に行き、ゴミ袋を抛り込んで戻ろうとした美喜の目に、コンクリート塀の横で雨に打たれている鳥の翼のようなものと、その下の人の姿が映る。叫ぶのを思いとどまって駆け寄ってみると、それは背中に翼をはやした12歳ぐらいの男の子だった。

——ちょっと、だいじょうぶ…？

——お腹すいた…

——…！

傘を抛り出して、男の子を引きずるように部屋に戻ると、会社にはでっち上げの理由で遅刻の旨を伝え、とりあえずで茹でたパスタを男の子の前に置く。

——きみ、だれ？

——天使

——少年、年上をなめちゃいけないよ

——フランスに行きたいと思ってる？

——なによ、いきなり…

——勉強しなおそうかなとも思ってるね
絶句する美喜に構わず、男の子はパス

タをパクつく。

*

美喜の許へ《天使》が転がり込んだのは、そういうわけだった。

——あんた、天使なんだったら、エイヤッて、ペラペラにしてよ、フランス語

——それじゃ魔法使いだよ。だいたいそんな力があつたら、腹ぺこでひっくり返ってなんかいないね。空腹がおさまったら、時空間移動の力くらい使えるけど

——ぜんたい、どうして翼ぶらさげたデクノボーに成り下がっちゃったのよ？

——まあ、ワケありってやつさ

——あんた、ほんとに天使？

——その証拠に、フランス語の歴史を見せてあげよっか

——なによ、それ

——フランス語の系統って知ってる？

——さあ、イタリア語やスペイン語の仲間だってことくらいかな。あ、英語とも単語が似てるよね

——まあ、そんなとこだらうと思った

——そりゃあんたは天地かいびやく開闢以来住んでんだから、モノシリでしょうよ

——じゃ、行こうよ

男の子はやにわに立ち上がると、美喜の手を掴む。

——ちょっと、どこ行くのよ？

——いいから、黙ってついておいでって

*

次の瞬間、美喜たちは見渡すかぎりの草原に立っていた。

——どこよ、ここ…？

——黒海の南側。向こうはカフカス山脈。現在でいうと、トルコ東部ロシアの南西、カザフスタンの西側ってとこかな

——現在って、いま、いつなのよ？

——さあ。あそこの人に訊いてみようか

——訊いてみるって、何語で？

——インド・ヨーロッパ祖語。フランス語や英語やドイツ語やロシア語やペルシャ語なんかの共通の祖先。イギリスの考古学者コリン・レンフルーによると、インド・ヨーロッパ祖語は紀元前七千年前、この辺で生まれて、それが農耕の伝播と共に西ヨーロッパに流入したんだとさ

——紀元前七千、てことは九千年前…

——まあ、他の説も色々あって、紀元前四千年だとかもっと後だとか、場所もカスピ海の北側だとか北欧の方だとか…

——ふむ、フランス語と英語で似てるところがあるのは、親戚だったせいかな

——それにはまた、別の理由が…

——でも、英語には、フランス語みたいに、名詞に男性・女性なんかないよね

——英語にも 12 世紀ぐらいまでは名詞に三つの性があったんだよ

——ふたつだってヤヤコシイのに…！

——インド・ヨーロッパ祖語の名詞には、「生物／無生物」の区別があつてね、生物は雄と雌からなるから「男性／女性」

に分けられるけど、無生物はそれ以外ということで、「男性／女性／中性」って三つの文法上の性ジャンル(genre)ができたのさ。今でも、ドイツ語やロシア語には三つの性があるし、フランス語のお母さんにあたるラテン語にだってあつたよ

——じゃあ、「天使」って男性名詞？

——フランス語の ^{アンジュ} **ange** は男性だけだ
 ——へえ、中性じゃないんだ
 ——なんだよ、じろじろ見るなよ…
 ——けど、ペルシャ語とも親戚とはねえ
 ——仏教の言葉になってるインドの
^{サンスクリット} 梵語もね。ほら、卒塔婆(stupa)とか奈落
 (naraka)とか刹那(ksana)とかけっこう日
 本語にも這入ってるよ。「旦那」もサンス
 クリット **dana** からで、元の意味は「お
 布施」。これはフランス語の ^{ドン} **don** (贈与)、
^{ドヌール} **donneur** (与える人)とか、そのフランス
 語由来の英語 ^{ドナー} **donor** と同じ語源だね
 ——でも、日本語は別系統なんでしょ？
 ——まあ、現在のところ、日本語は系統
 不明の言語だけど、アメリカの言語学者
 メリット・ルーレンなんか、紀元前十万
 年に口にされた **tik** って単語が人類最
 初の言葉だっていってるぞ
 ——紀元前十万年なんて、想像もできな
 いよ。だいたい、tik ってどういう意味？
 ——「指」って意味だってさ
 ——あ、でも、あんた天使なんだから、
 ほんとの歴史知ってんでしょ？ 実際の
 ところ、どうだったわけ？
 ——えーと、じゃ、次！

問答無用で美喜の腕をひつつかむ。

	「父」	「彼が来 る」
印欧祖語(BC3000)	^{パ テール} *pater	^{グ ウエメティ} *g ^w emeti
ラテン語(BC50)	pater	^{ウニット} venit
<*g ^w emit		
ゴート語(350)	^{ファザル} fadar	^{クウィミス} qimip
英語	^{ファーター} father	he come
ドイツ語	^{ヴァター} Vater	er kommt
フランス語	^{ペール} père	il vient
イタリア語	^{パードレ} padre	viene

主なインド・ヨーロッパ諸語

- イタリック語派
- ◆ラテン語→フランス語/イタリア語/スペイン語/ポルトガル語/ルーマニア語など
- ◆オスク語など
- ギリシア語派◆ギリシア語
- ケルト語派◆島嶼ケルト→アルランド語/ウェールズ語/ブルトン語など◆大陸ケルト→ガリア語など
- ゲルマン語派◆東ゲルマン→ゴート語◆北ゲルマン→アイスランド語/デンマーク語/スウェーデン語/ノルウェー語など◆西ゲルマン→英語/オランダ語/ドイツ語/フリジア語など
- スラヴ語派◆北スラヴ→ロシア語/ウクライナ語など◆西スラヴ→ポーランド語/チェコ語/スロヴァキア語など◆東スラヴ→ブルガリア語/セルビア語/クロアチア語/スロヴェニア語など
- イラン語派◆ペルシャ語/クルド語など
- インド語派◆サンスクリット/ヒンディー語/シンハラ語/ベンガル語など

*

次の瞬間、二人は、塙で囲まれた街の一角にいた。周りでは、なにやら人々が慌ただしく立ち働いている。

——ここって、街…？

——紀元前 52 年、フランス中東部、^{アレシア} Alesia の都市。今の ^{ブルゴーニュ} Bourgogne 地方、^{ディジョン} Dijon の北東辺りで、全ガリア連合軍を率いるウエルキングトリクスが籠城してる

——ガリア？

——フランス語では ^{ゴール} Gaule だけど、ようするにケルト人のことさ。北はイングランドから西はイベリア半島まで広がった一族で、独特の文化を持ってたんだ。その中で、多くの部族が集まったのが、今のフランスとベルギーの辺りで、ローマ人から ^{ガリア} Gallia って呼ばれてた

——Paris ってケルト系の名前だよな？

——そう、ガリアの一部族 ^{パリスィー} Parisii 族の土地っていう意味さ

——でも、フランス語って、ラテン語、つまりローマ人の言葉の子孫でしょ？

——『ガリア戦記』で名高いガリア討伐戦の七年目、かのユリウス・カエサル率いるローマ軍に囲まれたこのアレスシアは落城、全ガリアはローマの支配下に這入り、人々はラテン語を話すようになる。この後、共和制から帝政に移行したローマはどんどん広がって、地中海沿岸地域を制覇するまでにいたるけど、395年東西に分裂、476年には西ローマ帝国滅亡、その間、徐々に各地で訛^{なま}っていったラテン語が、土地の言葉になったってわけさ

(パウルスはユーリアを愛している)	
ラテン語	<small>パウルス・ユーリアム・アマット</small> Paulus Juliam amat.
イタリア語	<small>パウロ・アマ・ジュリア</small> Paulo ama Giulia.
フランス語	<small>ポール・エム・ジュリ</small> Paul aime Julie.

——ふうん、フランス語って、ラテン系だったんだ。どうりで、フランス語とイタリア語って似てるはずよねえ

——でも、フランス語はゲルマン系の影響をうけてるんだけどね

——ドイツ語や英語の影響を？

——ちょっと違うんだな。さ、行こうか

——またあ…！

*

彼方では、甲冑に身を固めた兵士の群が、二手に分かれて対峙している。

——また、戦争…？

——ううん。そっちが西フランク国王シャルルの軍、あっちが東フランク国王ルートヴィヒの軍。842年2月14日、今は仏独の境目になる ストラスブール Strasbourg で、お互いに協力しようって誓約書を交わしてるところ。二人は兄弟なんだ

——やっぱ、仲良きことは美^{かな}しき哉よね

——手を組んで、一番上の兄貴ロテールと喧嘩しようって約束なんだけどね

——なに、それ…

——フランク族ってのはゲルマン系で、もともとライン川の東にいたんだけど、クローヴィスっていう頭領が西の方に進出、ガリア全土を征服して王国を打ち立て、パリに都をおいたのが5世紀末。フランスの初代国王さ。ついで8世紀には、トランプのハートのキングのモデル、シャルルマーニュ大王が一大王国を築くけど、孫たちが領土を分割相続して、フランク王国は三分裂。末弟シャルルの国になった西フランクこそ、今のフランスさ

——そうか、France って国名、フランク Franc から来てるんだ。でも、ゲルマンの国なら、ゲルマン語になっちゃうんじゃないの？

——フランク族ってのは、長年ローマと付き合ってたからね。でも、兵士たちは地元の言葉しかわからなかったから、あの誓約の文書、お互いに相手方の言葉で書いてるんだよ

——ということは、ルートヴィヒは西フランクの言葉で書いた…？

——そう。その文章が、現存してる最古のフランス語文献なんだけどね

——でも、さっき、ゲルマン語の影響はあったっていったじゃない

——単語の流入とか、発音の変化とかに影響があったね。でも根本はラテン系さ

——じゃあ、単語が英語と似てるのは？

と、男の子は、無言で美喜の腕を掴む。

*

——なによ、また戦争じゃない…！

しかも、激戦のまっただ中だ。

——1066年10月14日、英南部ヘイスティングス。イングランドの王位継承権を

主張する北仏ノルマンディー公ギョームの軍勢が、新王に名乗りを上げたウェセックス伯ハロルドの軍と激突してるとこ。ノルマンディー公っていうのは、パリを含めた北仏一帯を荒らし回ったノルマン人、つまり北欧のヴァイキングの末裔で、占領した土地を正式に貰うかわりに、フランス王に臣従してたんだ

——で、どっちが勝つの？

——ギョームだね。即位後は呼び方も英語式にしてウィリアム1世。つまり、イングランドはフランス人の国になっちゃった。その結果、以後200年にわたって、イギリスの公用語はフランス語だった。

当然影響ものすごく、現代英単語の30%は、フランス語由来だそうだよ

——なるほど、単語が似てるわけよねえ

と、二人の傍らの地面に、折れた槍の先が宙を舞ってきて突き刺さる。

——いやあ、激戦だねえ。この戦争の様子を刺繍した壁掛けが、ノルマンディ西部の街 **Bayeux** の教会に残ってるよ

——ナニ呑気なことってんのよ

——だいじょうぶ、『俺たちは天使だ』

——冗談じゃないわよ、沖雅也じゃないんだから。『俺たちは天使じゃない』！

——ぼくは、デ・ニーロのリメイク版より、ボギーのオリジナルの方がいいな

——あ、『わたしたちは天使じゃない』って、フランス・ギャルの歌もあったっけ

——60年代の日本じゃ、『天使のためいき』ってタイトルにされてたけどね

——ザ・ピーナツがカバーしたやつね

——うーん、マニアックなネタだ…

途端に、美喜が悲鳴を上げる。が、次

の瞬間、突貫してくる騎兵の前から、二人の姿は掻き消えていた。

*

地中海の海辺。頭上は、満天の星空だ。

——うわあ、すごーい！　ここ、どこ？

——1944年7月30日、**コルシカ島**北東部ミオモの海岸。少し南のボルゴ基地には、連合軍北アフリカ戦線33-2偵察飛行大隊が駐屯してる…

——どうして戦争中ばかりなのよ！

あんた、**アングロス**の使者なんでしょ？

——同年8月15日、連合軍、南仏に上陸、同25日、パリ解放。翌年、戦争終結…

美喜は無然として海の方を見やる。

——コルスって、フランスなんだよね…

——1768年以來ね。中世以來、フランスがヨーロッパの中心として勢力を伸ばしたおかげで、長らくフランス語は全欧州の共通語、つまり外交や文化の言葉として栄えることになるんだけど、経済的にもイギリスに負けじと、アメリカ新大陸をはじめ、あちこちに植民地を作り、19世紀にはインドシナやアフリカ北部、西部にも進出した。ま、そのせいで、今でもカナダやアフリカ諸国をはじめフランス語を公用語とする国がたくさんあるわけだけどね。フランス語を使う国々が集まる「フランス語圏会議」には、50以上の国や地域が参加してるよ

——へえ、フランス語って、けっこうインターナショナルなんだ

——国連の作業語や欧州議会の公用語は英仏二語だけだしね。昔からのフランス語圏のベルギーやスイスでも公用語だよ

——60年代の日本じゃ、『天使のためいき』ってタイトルにされてたけどね

——ザ・ピーナツがカバーしたやつね

——うーん、マニアックなネタだ…

途端に、美喜が悲鳴を上げる。が、次

——そうそう、ボギーの『カサブランカ』
って、仏領モロッコの話だったっけ？
——なんだ、見てないの？ 北アフリカ
のチュニジア、アルジェリア、モロッコ、
いわゆるマグレブ三国はフランス語圏さ。
フランスにも、多くの人に移住してるよ
——そういえば、仏文学でいちばん有名な本、『星の王子さま』の作者サン=テグ
ジュペリも、郵便飛行機でカサブランカ
に飛んでたのよね

——しかも『王子さま』も『カサブラン
カ』も、一年前、1943年の発表だよ

その時、闇の中から人影がのっそりと
現れ、二人をぎょっとさせる。

——^{ボンソワール}こんばんわ…

——あ、ボ、ボンソワール…

大柄なその男は、煙草をふかしながら、
海岸に向かって歩いていく。

——だれ、あの人？

——33-2 飛行大隊第3中隊所属、アント
ワヌ・ド・サン=テグジュペリ少佐…

——えっ、あれが？ あ、サ、サインを！

駆け出そうとする美喜を押しとどめて、
——きっと一人になりたいんじゃないかな。明日はP38ライトニングに搭乗して、
最後の偵察飛行に出るんだから…

——最後って…？ あ、まさか…

——1944年7月31日8時45分、223号
機、リヨン東部地域航空写真撮影に出発
——とめなくちゃ…！

けれど、前に立ちはだかった男の子の
視線に捉えられて、美喜は動けなくなる。

——だって、あと少しで勝つのに…

——歴史は変えられないんだ、たとえ神
様でも…

——^{オ・ルヴ・マール}じゃ、またね！

しばし海に向かって夜空を眺めていた
^{ル・プチ・フランス}
Le Petit Prince の作者は、陽気に挨拶す
ると、元来た闇の中へ消えていった。

——12時30分、予定時間に帰還せず。
14時30分、積載燃料による可能航行時
間を過ぎる。31日の基地日誌特記事項、
「操縦士帰投せず、死亡と推定さる」
——…

——…

——誰だって、やるべきことをやるため
に生まれてくるんだから…

美喜は項突く。

ふいに、男の子は空の一角を振り仰ぎ、
——いけね、もう戻らなくっちゃ…

——あ、またイキナリなんだから！

*

気がつくと、男の子の姿はなかった。
当然かもしれない。たぶんリアルな夢だ
ったのだろう。でも、パスタの切れ端が
へばりついたお皿の説明まではできない。
美喜は深く考えないことにした。

——さーてと、仕事、いくか…

あの日から集めだした語学学校のパン
フの束をテーブルの端にそろえて置くと、
窓に眼をやる。外は、今日も雨だ。

——あいつ、守護天使だったのかな…

そうつぶやくと同時に、どこかで溜息
の音が聞こえたような気がした。

(ふくしま・よしゆき イラストも)